

第8回国際学術フォーラムを開催します！

第8回国際学術フォーラム「国際ソーシャルワーク理論研究100年の「その先」には何があるのか？」を2024年2月27日に開催する予定です。1928年に初めてInternational Social Workという言葉が使われてまもなく100年。本フォーラムでは「国際ソーシャルワークとは何か？」について、未来に向けて、問います。グローバル化・複雑化する社会において、国際ソーシャルワーク理論は今までの枠組みの議論の上に立ち、さらに扉を開いて歩み続けていかななくてはなりません。4年ぶりの対面（ハイブリッド）開催となる本フォーラムでは、海外からリン・ヒーリー先生を再度お迎えし、前回語られなかった国際ソーシャルワーク理論そのものについて、参加者と議論する予定で調整を進めています。

国際組織・機関への貢献

アジア太平洋地域ソーシャルワーク学校連盟（APASWE）が共催した第27回アジア太平洋地域会議（APRC；フィリピン・セブ市）は4年ぶりに対面による開催となり、2000人近くのソーシャルワークの実践家や教育者らが集まりました。会議場では、来場者とAPASWEの新規加盟勧誘や広報、国際に興味のある研究者たちとのネットワークづくりにつながる会話がなされました。ARIISWは、英文発行の報告書をAPASWEに寄付してファンドレイジングに役立たせていただきました。淑徳大学とARIISWについてもご紹介し、来場者からは大きな関心が寄せられました。松尾研究員がフィジー共和国のソーシャルワーク教育伝播の歴史について「How can international social work research serve social work education in the Asia-Pacific region? 」というタイトルで口頭発表しました。また、上述の国際学術フォーラムについても広報がなされました。



分科会発表（50名以上の聴衆）



IFSW副会長Sriganesh MV氏（左から二人目）とAPASWEのブースにて。右側から、IASSW日本代表理事和気純子氏、APASWE会計担当理事添田正揮氏、書記担当理事Jowima Reyes氏、一般理事Mohd Haizzan Yahaya氏、松尾研究員。

◆アジア国際社会福祉研究所のニュースは当研究所のホームページよりご覧いただけます。

<https://www.shukutoku.ac.jp/university/facilities/asiancenter/>

◆淑徳大学内ではSナビにて月1回程度配布されます。